



設楽ダムの建設中止を求める会

会報第11号
09年3月

〒441-1101 豊橋市賀茂町山屋敷 28-1

<http://no-dam.net/index.html>

09.2月8日・第3回総会を開催

目標数 100 人を超える出席者
於：愛知県奥三河研修センター

「設楽ダムの建設中止を求める第3回総会」は、設楽の元音楽教師夏目先生の指導の下、地元住民の方たちのコーラスによる、爽やかな「北設楽郡歌」で始まりました。当会幹事会は総会開始に向けて、この日の参加者目標数を100人に据え、豊川駅からマイクロバスを走らせるなど取り組んできましたが、その目標を超える130人近い参加者でした。

岡本尚太田川ダム研究会代表の記念講演では太田川ダムと地震の関係 太田川ダム誘発東海地震でダム倒壊の危険性、ダム堤体のヒビ割れの実態が報告され設楽ダム建設への大きな警鐘となりました。(太田川ダムについてはwww.geocities.co.jp/NatureLand/2063/10-chapter.pdfに詳しく掲載されています)。続いて08年度の活動報告のあと参加者による意見交換と進められました。以上の経緯を持って次のような活動方針が採択されました。設楽町のみなさん、総会にご協力いただきましてありがとうございました。



写真はダムにより水没するため大半が移転する愛知県設楽町の大名倉地区＝谷之口昭撮影

1月26日に設楽町議会が設楽ダム建設に「同意」を表明したこともあり、朝日新聞「動き出した設楽ダム―構想36年」、中日新聞「設楽ダム36年後の決断」、読売新聞「設楽ダム着工へ」と新聞各社が設楽ダム特集を連載するなかでこの総会は開催されました。

●09年度活動方針

1月26日の設楽町長のダム建設受け入れ表明を受けて、2月5日に中部地整・愛知県・設楽町の3者が調印式をおこなった。しかしながら、これは、事業者側の都合に合わせ、大多数の設楽町住民の意向を無視して強行された道理のない“儀式”である。

1978年から始まった豊川総合用水事業は、実際よりはるかに高い需要予測を立てて、2002年3月末に完成しており、2003年以降の豊川水系の水需要は大幅な供給余力を実現している。また、設楽ダムは、寒狭川の最上流の62km²の流域をカバーするのみで、豊川下流の洪水対策としてほとんど意味は持たない。さらに、設楽ダムの有効貯留容量9200万m³のうちの65%、6000万m³が“流水の正常な機能の維持”を目的とする不特定容量で、豊川用水への取水によって減った宇連川の流量を増やすために寒狭川下流の水を奪うのである。宇連川に僅かな流れをとりもどすため、寒狭川の河川環境を破壊しようとする計画を“自然にやさしいダム造り”だと言いくるめる本末転倒したダム計画で、こんな計画を公共事業としてはとうてい認めることはできない。

愛知県に対する公金支出差止訴訟は、これから立証段階に入るので、私たち中止を求める会は、168名の原告・弁護団・9人の専門家証人と連携して、裁判の勝利のために全力をあげてとりくむ。このばかげたダム計画は止めるべきだという声を広げ、世論をつくりあげるために、以下のような取り組みを計画し、実行する。

●09 年度活動内容

(1) シンポジウム等

1. シンポジウム 1 『設楽ダム環境アセスを解剖する』(仮題)

生物多様性条約第 10 回締約国会議(2010 年名古屋・愛知開催)に関連付けて、設楽ダム事業によって、いかに東三河・豊川流域の野生生物が脅かされるか(希少種・絶滅危惧種などを中心に)・・・名古屋地区で開催(※2/24 生物多様性条約市民ネットワークに参加登録しました)

2. シンポジウム 2 『設楽ダムの 6000 万 m³「流水の正常な機能維持」容量』

ばかげたダム計画を徹底検証、討論する

3. 現地視察 (※立木トラスト現地視察を兼ねて 2 ヶ月に 1 回の頻度で開催)

4 シンポジウム 3 『現地視察を終えて・・・市民版の豊川流域委員会』 他

(※シンポジウムは 2/19 設立された「設楽ダムの建設中止！名古屋の会」と協働で行なう)

(2) 本音トーク(地域おこしについての検討・政策化)(※次回は 3 月 29 日)

(3) 証人意見書集の作成・普及

(4) パネル、CDR、DVDR、USBM などの広報宣伝の手段を作成し、活用する

(5) トラスト運動(※立木トラスト 3 月 1 日申込開始)

立木トラストで設楽ダム中止に向け、多くの支援者を募集する。土地トラストについても検討する

(6) ダム事業中止を求める署名運動

(7) 豊川流域自然グループと協力して、豊川流域の“宝”を調べ記録する

→ 豊川流域を文化財として登録する運動(※2 月 11 日第 1 回豊川流域自然学校開催)

(8) さまざまなイベントに若者の協力を得て参加し広報する

メコンウォッチ、アースデイ(東京・名古屋など)、豊川河口の行事など

(※アースデイ 4/18～19 東京と豊橋に出展、ピースシネマ名古屋 5/16.17 出展企画中)

(9) 他団体への働きかけ・共同

木曾川水系(流水正常機能問題で共通の課題を抱える)の運動、三河湾・豊川の漁協、農協・土地改良区への働きかけ、水源連、その他の環境団体、生協、労組、平和・民主団体、福祉団体、政党など

※は 2 月 22 日の拡大幹事会での確認事項

2008 年度 会計報告(08.01.01～08.12.31)

入 金	
摘 要	金 額
前年度繰越金	603,973
会費 @2,000×186	372,000
@1,000×3	3,000
内訳：振込 129 人 現金 60 人	
カンパ	390,453
内訳：会場カンパ	・ 33,121
団体カンパ	・ 31,912
個人カンパ	・ 325,420
合計	1,369,426

出 金	
摘 要	金 額
訴訟費用	634,000
会場費	58,770
講演会費	90,500
通信費	195,110
事務費	143,035
広報費	13,075
諸経費(振込手数料等)	30,840
合計	1,165,330
(次年度繰越)	204,096

(……省略)

豊川水系はよく知られているように長年水不足に悩まされ続けておりました。そして 古くは牟呂、松原用水から始まって豊川用水は昭和 24 年(1,949 年)に建設着手され、昭和 43 年(1,978 年)に全面通水しました。その間 宇連ダム(総貯水量 2,842 万m³)は昭和 33 年(1,958 年)に完成しました。しかし それでもまだ水が足りないということで、さらに昭和 55 年(1,980 年)から豊川総合用水事業が始まり平成 14 年 3 月(2,002 年)にこの事業は完了しました。この事業では、大島ダム(1,130 万m³)、万場調整池(500 万m³)、大原調整池(200 万m³)、芦ヶ池調整池(200 万m³)、蒲郡調整池の拡充(10 万m³ から 50 万m³ へ)などが続々と完成しました。また 寒狭川から宇連川へ導水するため新規に寒狭川導水路を造り 15m³/秒の取水が行われるようになりました。

これらの総合用水事業の完成により、東三河地域の水需要への対応は万全ともいえる態勢が出来上がったわけであります。

さて 以上述べてきました総合用水事業の進捗状況と、やや遅れて発足しましたが、ほぼ同時期に並行して開かれた流域委員会との関係はどうだったのでしょうか

流域委員会が「豊川水系河川整備計画に設楽ダム建設を含める」ことを認めたのは平成 13 年(2,001 年)3 月であります。大島ダムの試験湛水の開始は平成 12 年(2,000 年)10 月から平成 13 年(2,001 年)10 月まで、完成検査は平成 13 年(2,001 年)12 月、総合用水事業は平成 14 年(2,002 年)3 月に完成しております。

したがって、流域委員会での議論の中では、素人の私から見ても当然間もなく完成するであろう総合用水事業の施設を考慮に入れて、東三河流

域全体の水需給関係を総合的に検討されてしかるべきであろうと思われます。たとえば「雨が平年並みであった場合には、水の水需給関係はどうなるのか」とか「雨が 10 年に 1 度の少雨であった場合はどうなるか」とか 極端な場合すなわち「戦後最小の少雨の場合はどうなるか」などのいろいろなケースを想定して、総合用水事業の効果をはっきりさせてシミュレーションすべきであろうと思われます。しかし 当時の委員会の議事録を読み返してみますと、この総合用水事業の進捗状況については見て見ぬふりをしていたとしか考えられないのであります。むしろ これらの施設が完成してしまっただけでは「これらの施設ができたのだから、もうダムなど要らないのではないか」という意見が出てくることを恐れ、都合が悪いとばかりにこれらが完了する前に、無理やり しゃにむに委員会の結論を急いだのではないかと疑念すら持たざるを得ないのであります。

このようないきさつがありますので、この流域委員会の結論を今の時点で「ああ そうですか」と簡単には受け入れるわけにはいかないのであります。そしてまた、この委員会の結論を金科玉条のごとくかざして、自治体お役所が「ダム建設のお墨付き」が得られているかのように主張するもの納得しがたいところであります。

以上の如く、流域委員会では、「水の供給態勢が整ってきている」ことを無視して議論され結論を導き出したところに根本的な誤りがあることを強く指摘しておきます。そしてまた、水需要の将来予測を過大に見積もっていることと相俟って、あたかも水不足が危機的状況にあるかのように国や県が世論を誘導してきたことを強く糾弾するものであります。



以上

裁判
傍聴

をお願いします

次回第 10 回口頭弁論期 4 月 15 日(水)11:30~

名古屋地裁号法廷 (予定)

次回では、被告側からの立証計画・証人の申請が予定され、証人調べや現地調査の予定が検討されるものと思ひます。

原告意見陳述の応募もよろしくお願ひします。



豊川流域自然学校開講される

第1回（2月11日） オシドリの里～田峯祭を歩く

参加されたみなさんの感想です。歩いた歴史を記録していきます。

●本日は朝早くからご苦勞様でした。多くの方がご参加くださりありがとうございました。

今日の見学コースは、1. オシドリの里 2. 田峰観音 3. 田峰城 4. 田口線終点駅跡(ダム堰堤の少し上流)とダムに沈む赤い橋 5. 設楽町奥三河郷土館 6. 田口線の電車 7. 添沢温泉で入浴と食事 と盛り沢山でした。

私の感想:

1. クマタカの羽根を見せていただきましたが、今度はその飛んでいる姿を見たい。
2. 田峰観音の歌舞伎を次回には見たい。
3. 田峰城の物見台からの景色がなんとも素晴らしく絶景でした。また書院造りの建物も立派でした。戦国時代の武将たちの激しい争いに思いをはせました。
4. 田口線駅跡に立ち、ここがダムの底に沈むと思うと、なぜこの自然を壊して・・とってしまいます。
5. 郷土館 縄文人にとってはこの奥三河がよほど住みやすかったのですかね。海が近かったのでしょうか？豊橋の石巻山にも資料館があるのですが、そこでも貝塚などの展示があり海が近かったと説明されていました。
6. 電車 磁気カードではない昔の乗車券、パチンと端にパンチを入れる切符が懐かしかった。

市野先生と伊奈先生にはご説明役をして下さり有難うございました。宮林さま 今後のこの会の記録を残しておくために、ブログを開設して皆さんの意見や感想を自由に書き込めるようにしたらどうか、との意見が出ました。ご検討下さい。

●実際に現地に行って、この環境がなくなるのはもったいないと強く感じました。豊橋から一時間ちょっと走るだけであんなにきれいな水が見れるとは知りませんでした。陳腐な言葉しか出ませんが、改めて自然ってすごいなと思いました。五平餅も本当においしかったです。

●次回が更に楽しみになってきました。楽しみながら豊川の再発見が出来ればと思います。

設楽に向かう道から見えた川は、コンクリートで両面を固められたような人工的なものでない、自然の川でとても綺麗に見えました。

オシドリは残念ながら見れませんでした。マガモ？がいっぱいで、可愛かったです。

車を置いた小学校がステキだなあと感じました。ごへいもちはずごくでつかくて、あんな自然の中で食べることができて、より美味しかったです☆

歌舞伎、見たかった。お城が思ったより立派でした。物見台に上ったらすごく気持ちよかったです。お城の周りとかももう少しゆっくり見たかったです。郷土館も、いろんなものあってびっくりでした。

動物の剥製とか、オシドリは本物は見れなかったけど、綺麗でした。その後行った昔の駅とか、赤い橋とか、温泉とかあんな自然がいっぱいのところ、全部行けなくなってしまうのは、本当に残念です。

家族にいろいろ話しながら、悲しくなっていました。



伊奈紘さんから説明を聞く参加者(オシドリの里で)

●
おしどりは見れなくて残念でしたねー。でもダミネ観音のところでおばちゃんが、もうちょっと奥でさつき見て来たと言っていたのを聞いて、オシドリが環境を敏感に察知して、奥へ追いやられてしまってるのかなあと考えました。最近でもおしどりの里で頻繁に見れるのでしょうか＝お祭りで人が多かったからなのかな＝大五平

●
昨日は豊川上流の色々なところに連れて行っていただき、貴重な自然に触れることができました。その中で強く印象に残ったのが、豊川の水の美しさでした。いつも下流で見ている川とは思えないほど綺麗でした。今回唯一心のこりなのは、川に直接触れられなかったことです。また、ダム建設予定地と水没地域を実際に見てきました。率直な感想は、とてつもなく広い範囲が水没するのだという驚きでした。

餅はうまかった＝お城は少し寒かったですが、いろいろ話が聞けて楽しかったです。

川がめちゃくちゃ綺麗だったので、夏になったら川遊びしたいですね☆最初の一滴を求めてトレッキングもいいなあ

少なくとも僕が想像していた範囲の何十倍もの規模でした。これだけの水を調整する必要があるんだだろうか。疑問が残りました。温泉と食事に利用した添沢温泉も、水没予定地だそうです。だから、30年ほど前から改修工事等はしていないとのことでした。

ここにも、ダム建設の有無を巡って犠牲になってる人たちがいるんだなと思いました。

それでも、温泉もご飯も最高でした。



クマカカも？と見上げる参加者

●車でうねうねの山道を走っているとき、太陽の光が木と木の間からさし込んできて、キラキラしていたのがとてもキレイで印象的でした。川も空の青色と木の緑色を映してとてもきれいでした。

オシドリはいなかったけど、マガモがあんなにたくさんいるのも初めて見ました。同じ向きでふかふか浮いているマガモたちはとてもかわいかったです。

五平餅は想像以上にでっかくて、みそがたっぷりぬってあって、あれを山を見ながら食べるのは最高だなあと思いました。五平餅を売っていたおじさんおばさんもすごく優しくてあったかかったです。

赤い大きな橋はぽつんとあったけど、存在感がすごくありました。

添沢温泉は岩が建物の中にまで突き抜けていて大迫力でした。温泉はこじんまりとしていて、ちょっと熱めだったけど、じわあ〜と体にしみて本当に気持ちよかったです。これが全部ダムに沈むなんて、ピンときませんでした。ダムができるのを静かに待っているようで悲しくなりました。

まだまだ見れてない豊川流域の宝をこれからも見て知っていろいろ感じていきたいです。

次回開講は4月下旬の予定 問合せ・申込は 080-5102-6763(四谷)まで。

設楽ダムの建設中止を求める会: <http://no-dam.net/index.html>



代表 市野和夫 ichinok7@mx3.tees.ne.jp

事務局 奥宮芳子 〒440-0069 豊橋市御園町 1-3

TEL & fax 0532-54-7305 okumiya@xj.commufa.jp

郵便振替の口座番号:00870-1-134146 加入者名:設楽ダムの建設中止を求める会

振込用紙を同封します。カンパ、2009年度の会費(年額2000円)納入にお使ください。

他銀行からの振込みは、ゆうちょ銀行【店番 089(ゼロハチキュウ店) 当座 0134146】

事務局のメールアドレスが変わりました